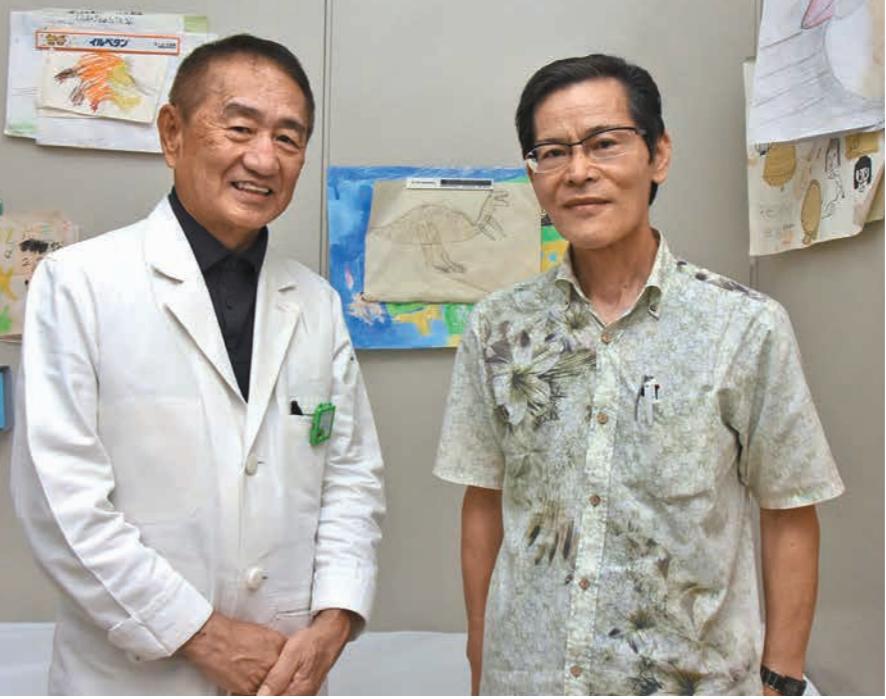


医療法人陽心会プレゼンツ ヘルシーセッション

「安全・安心なりゾート地、沖縄」に貢献したい。



名嘉 正光
なか まさみつ

真栄田 篤彦
まえだ あつひこ

株式会社沖縄臨床検査センター 代表取締役
1949年、那覇市生まれ。75年に国際弘前大学医学部を卒業後、同小児科教室に入局。83年に医学博士号を取得して帰郷し、勤務医を経て91年に西町クリニック(那覇市)を開設。現在に至る。那覇市医師会会長、沖縄県医師会常任理事、沖縄県政策参与などを歴任。沖縄YMCA理事長。(公社)沖縄セントラル病院事務長に就任。現在に至る。

今日は、新型コロナウイルス感染症の拡大を食い止めるべく、この8月に設立された沖縄臨床検査センターのお2人が登場です。医療機関と連携しながら、1日2000件以上のPCR検査実施を目指しています。

定期間待機していただくということです。

員が検査を受けることができる体制が望ましいですね。本来なら早めの検査で陽性者を確定したとえ無症状であっても療養施設やホテルに待機してもらうということが必要になります。

真栄田 行政も試行錯誤を繰り返しながら懸命に取り組んでいることと思いますが、検査の実施施設はほとんど増えています。8月1、2日に那覇市が松山の飲食店従業員を対象に実施したPCR検査では、200人を超える人が受診しています。これは画期的な取り組みでしたが、検査センター自体はパニック状態になつてその処理を終えるまでに1週間ほどかかってしまいました。

真栄田 水際対策といえば、2000年初頭にSARS(重症急性呼吸器症候群)が世界的に流行しました。当時私は沖縄県医師会の常任理事として県と情報交換などをしていましてが、県はその時に那覇港に寄港する台湾からのクルーズ船で厳しく臨検を実施するなどしていました。そのような取り組みもあり、沖縄は難しいかもしませんが、沖縄は観光立県です。渡航をすべて自粛するというわけにはいかないにしても、空港や港での検疫強化は不可欠です。陰性ならもちろんウエルカムですが、残念ながら陽性と診断された方には行政の指定する施設で一

PCR検査を受診可能

名嘉 真栄田先生が代表を務める株式会社沖縄臨床検査センターが8月4日に設立されました。4台の検査機器を導入して9月1日から業務開始となります。2000件以上のPCR検査を目指します。設置場所は那覇市辺で、医療機関を通して希望される方にはいつでも何度でも検査をしていただけます。例えば家族や職場に感染者が出た場合、濃厚接触者の定義に当たはまつてしまふと2週間の自宅待機が求められます。自身の感染に対する不安や、職場への早期復帰を望む方のお役に立てるものと考えています。

真栄田 真栄田さんにも検査側の代表として検査の陣頭指揮を執つてもうわけですが、この施設は決して営利目的で開設したわけではありません。抗原検査という手法もありますが、今扱り所となつてるのはやはりPCR検査であり、一番必要とされているものであります。今回の開設が本当の意味での感染拡大予防の第一歩となり、那覇市や沖縄県とタイアップしながら一刻も早く新型コロナに対する不安から県民を解放したいと思っています。もちろんそのためには、優秀な検査技師の養成が不可欠です。

名嘉 現在、検査技師4名が県の衛生環境研究所を中心にトレーニングを積んでいます。また、一般社団法人日本臨床衛生検査技士会がPCR検査のWEB研修も行っていますので、そのような座学も採り入れて

無症状で感染能力を持つた陽性者が増加

名嘉 7月22日にスタートした「GOTOトラベル」キャンペーんが実施された頃から、沖縄では新型コロナウイルス感染症の患者が増大傾向にあります。8月5日には玉城デニー知事が、7月31日に発出した「沖縄県緊急事態宣言」を変更して休業要請の対象地域を追加しています。8月に入つて新規感染者が100人を超える日が3度もありましたので、旧盆などで沖縄に帰つてくる人たちのことを考えると、今後さらなる感染数の増加も懸念されます。

真栄田 沖縄での感染は3月1日のクルーズ客船、ダイヤモンドプリンセス号の那覇港寄港から始まりました。人の移動が活発になると同時に、ウイルスも一緒に広がつていくんのですよね。日本は当初、発生したクラスターを細かく追跡してそれをつぶしていくという対策を取っていました。これは感染初期の時点では非常に有効でした。

名嘉 現在、県内で実施可能な1日あたりの

PCR検査数は、県の衛生環境研究所で40件ほど、県の委託で検査をしている研究所で約500件とされています。しかし、検査数の増加により現場は検査に追われ、検体の搬送問題や検査報告の遅延も問題となっています。県外の検査センターに委託した場合、所要日数が3~5日かかるという現状もあります。

真栄田 現在、感染の診断を確定する唯一の方法はPCR検査です。診断をより早く確定して、陽性ならすぐに隔離する。これしか流行を抑える手立てはありません。検査数を増やすほど感染者が増加するといわれていますが、検査をしないことには感染者を特定することはできません。無症状で感染者ならすぐに隔離する。これで陽性ならすぐに感染者が、自覚のないままに自宅や職場で家族や同僚に感染を広げてしまいます。沖縄は高齢者と同居している世帯が多いので、高齢者にどんどん感染を広げてしまう恐れもあります。それを防ぐためにも、PCR検査を早期に増やすことが大切です。

空港検疫を強化して水際で食い止める

名嘉 市中感染となると感染経路が追えませんので、感染の不安がある人に対しても全

医療法人陽心会グループ

医療法人陽心会 社会福祉法人陽風会

有限会社ヘルスサポート

理事長 高良 健



高良 健

高良 健